



## 社会的公正教育について学ぶ —日本語教師が持つ無自覚な特権に気づくために— 開催報告



日時：2022年8月28日（日）13:30～16:30 \*Zoomによるオンライン開催  
参加者：61名（講師・スタッフを含む）

今年度の「あしたば勉強会」では、上智大学の出口真紀子先生を講師としてお迎えし、社会的公正教育について参加者の皆さまとともに考えました。出口先生は、文化心理学をご専門とされていて、文化変容のプロセスやマジョリティ・マイノリティの差別の心理についてご研究なさっています。そのご研究を背景にした先生のお話は、非常に力強く、多くの示唆に富んだ内容となっていました。

勉強会は2部構成で、出口先生のご講演とワークショップを実施しました。加えて、今年度は、講演部分のみ動画を共有することで、より多くの皆さまにご参加いただける機会を設けました。第1部のご講演では、誤解されがちな「特権」について解説がありました。本講演では、マイノリティの視点から議論されがちな差別や人権といった問題をマジョリティ側に焦点を当てた形で取り上げ、マジョリティが持つ特権や態度、心理、変容という側面からその実態を考える内容となっていました。その中で、教師と学生やカウンセラーとクライアントといった関係性の非対称性についてのお話では、日本語教師は教師やネイティブ性からもたらされる多くの特権に自覚的になる必要があることを痛感させられました。特に、教師になる人の多くは「陽の当たる場所を歩いてきた」というご指摘には、教師が教師の役割と特権を考えるにあたって、自身の経験について内省的になる必要があることを改めて思い知らされました。また、ご講演だけではなく、実際に参加者の皆さまとエクササイズを行い、人種やジェンダー、学歴などの属性を1つずつ確認していくことで、自分の中にあるマジョリティ性とマイノリティ性が可視化されるとともに、労せずともできることが多いという特権をより実感を持って考えることができました。

以下を「〇〇である自分には、  
〇〇の特権がある」に言い換えて  
みてください。

あるXジェンダー（男女の二分法で自分の性別を定義しない人）の講演者が、講演に呼ばれる日は、朝から極力水分を摂取しないようにしている、と話したのを聞いた。

オールジェンダートイレのある会場でない理由で水分補給をせずに身体をコントロールするって大変だなあ。

特権に置き換えると：

シスジェンダーである私は、講演に呼ばれる際、自分が利用できるトイレがないなど考えることが人生で一度もない特権がある。

第2部のワークショップでは、グループに分かれ、私たち日本語教師が持つ無自覚な特権について考える活動を行いました。活動としては、身の回りで起こりうる事象を捉え直すことで、特権の所在とその内容を知ることができるエクササイズを行いました。勉強会終了後にアンケートをお願いしたところ、当日参加して下さった40名の方からご回答がありました。アンケートによると、講演、ワークショップともに



皆さんに満足していただけたようで、「出口真紀子先生の熱意が画面越しに伝わってきた」「実際の体験例などを踏まえて議論することができた」などのお声も寄せられています。また、「差別について表現する言葉を変えることで、自分自身の聴く姿勢が大きくかわることを実体験した」というご意見もありました。マジョリティが自身の認識を変える意味がこの勉強会で実感できたというお声が聞けて、改めて本勉強会を開催できたことの意義と喜びを感じております。今回も前回に引き続き、「人権」という大きなテーマに迫る内容となりましたが、ここに改めてご講演くださった出口真紀子先生と参加者の皆様方にお礼を申し上げたいと思います。（文責：中井）